

「家宝」としての三線

受け継がれて来た



信通一ゆみちお

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum News Letter

vol.10

冬号

マチュー与那（個人蔵）

王府時代の三線。型は古い与那城型を呈しており、材は黒檀である。絃を押さえるつぼ（ウスミー）の剥がれ具合から、よく弾かれていた三線であることがわかる。心は木ピン3本で接いでおり、繰り返し修理しながら、代々大切に受け継がれてきた三線である。

＼愛称がおきみゅーになりました！



沖縄県立博物館・美術館
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

博物館 企画展

琉球三線楽器保存・育成会創立30周年記念

沖縄が誇る家宝の三線展

2019 **5**火 **3** **10**日

博物館企画展示室、特別展示室1

一般 700(560)円、高校・大学生 400(320)円、
小・中学生 200(160)円

※()は20名以上の団体料金

※未就学児無料

※障がい者手帳をお持ちの方および
その介助者の方1名は無料

琉球三線楽器保存・育成会の宜保会長と照喜名 副会長に琉球三線楽器保存・育成会創立30周年記念「沖縄が誇る家宝の三線展」についてお聞きしました。

【写真左】宜保 榮治郎さん 【写真右】照喜名 朝一さん



展覧会開催のきっかけや見どころを 教えてください

宜保: 琉球三線楽器保存・育成会を発足して30周年の節目となりました。本展はこれを記念する展覧会です。

照喜名: 見どころはまず三線の材質です。樟部分の黒檀の美しさや伝統的な型にも注目して観てもらいたい。昔から三線は沖縄では家宝として床の間に飾られ、大事に扱われてきてきました。

宜保: 琉球三線楽器保存・育成会では三線の美しさより、どれだけ大事に扱われてきたかという事を中心に考えています。家宝として大切に扱われてきた三線が代々受け継がれていることに意味があると思います。今回の展覧会では琉球三線楽器保存・育成会が30年間鑑定してきた中から、選び抜かれた60挺以上の三線を展示します。

琉球三線楽器保存・育成会の 活動とは?

宜保: 発足当初は沖縄の三線にはどのような型があるか、また製作年代や製作者などの情報がわからないものが数多くありました。この現状を改善する為に、野村流や安富祖流の歴代の会長を務めた実演家が集まって三線の一つひとつ調査し、分類していききました。当初はいつ誰が製作したのか分からなかったのですが、三線所有者の方の話を聞き、また三線を実際に見る

ことによって、琉球王府時代や明治初期から後期、大正、昭和などの製作年代や製作者を見分けることが出来るようになりました。また三線にどのような由来があるかも併せて調べ、30年の情報の蓄積をようやく今後活かす事が出来るようになってきました。

これからの三線

照喜名: 三線は色々な意味で自由自在。沖縄の楽器だが今は県外や海外でも多くの方に弾いてもらっており身近な存在になっています。

宜保: 私としてはもっと若い人達に三線を弾いてもらいたいと思っています。今では沖縄の人も邦楽や洋楽を聴いている人が多くなっているが、若い人達が沖縄の古典音楽や民謡などをもっと聴いて次世代へ繋いでいくことがとても大事。三線を小さい頃から学ぶために学校教育での音楽の授業で沖縄の三線を弾いて、沖縄の唄を歌い、沖縄の事を勉強して、沖縄に誇りを持って欲しいです。そして三線を弾くことや三線のある生活が当たり前になって欲しいと思います。

照喜名: 気軽に親しみ沖縄の音楽を是非楽しんでもらいたいと思います。若い人達以外にも三線を弾くことは出来ます。三線を始めるのに遅いということはありません。



毎月1回 三線鑑定会を実施している

美術館 コレクション展

伊志嶺 隆と平敷兼七

1/12土 6/23日
2019
コレクションギャラリー1・2、ホワイエ
一般 310(250)円
高校・大学生 210(170)円
小・中学生 100(80)円

※()は20名以上の団体料金 ※未就学児無料

※県内小中学生無料 ※70歳以上の方は無料(身分証の提示が必要です)

※障がい者手帳をお持ちの方およびその介助者の方1名は無料



平敷兼七(シーラをかついでいる女の子 カツオをもってゆく男の子 与那国) 1970年

美術館コレクション展「伊志嶺隆と平敷兼七」について担当学芸員に聞きました。

今回の展覧会はふたりの写真家を取り上げています。ふたりにとって写真との出会いとはどのようなものだったのでしょうか

伊志嶺隆は1945年に、平敷兼七も戦後間もない1948年に生まれました。ふたりはほぼ同時代を生きた写真家といえます。

1965年、伊志嶺は高校卒業後に両親の家業の関係で東京の印刷会社に勤めることとなりますが、その後事情が変わり1968年、義兄のすすめを受けて、興味があった写真を学ぶことを決心します。1年ほど専門学校に通いますが写真家である高梨豊の事務所にアルバイトとして勤めることになり、写真の技術を学びます。

平敷は高校の頃に写真に出会い、写真担当の先生に写真を教わりました。彼は内気な少年で、また小学校に通いはじめて自身に吃音があることを知りましたが、写真との出会いによって他人との積極的な関わり合いを持つきっかけができました。その後、写真を学ぶため東京に進学することになりました。平敷が東京に向かったのが1967年ですから、ふたりはほぼ同時期に東京にいたことになるわけです。

ふたりは東京時代にどんな写真を撮っていたのでしょうか

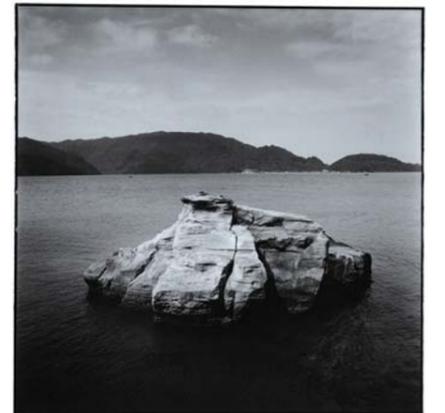
当時の東京は学生運動が盛んな頃であり、その様子を写した写真が数多く撮影されていました。この度、東京時代に伊志嶺が撮影した写真が発見されました。伊志嶺は都心部で行われていたデモの様子や横田基地周辺を撮っており、本人のプリントと思われる彼の初期作品を美術館の展覧会で公開するのは本展が初めてです。伊

志嶺が1969年頃に沖縄滞在中に撮影した市場の風景などのスナップショットもこの機会に初めて展示します。後年の作風とは異なっていて大変興味深い写真です。

平敷も東京で写真を撮っていました。東京都狛江市にある沖縄出身者のための学生寮「南灯寮」を撮影し、1969年に個展「オキナワ・南灯寮」を沖縄で開催しています。彼は都市の様子や学生運動を撮ることを主眼とはしていませんが、寮長選挙や寮の食堂のテレビに映る映像などを撮影しており、同郷の若者たちの生活のなかから時代の状況を仄めかそうとしていたことが窺えます。平敷はその後、一冊の卒業制作をまとめますが、そこでは南北大東島や宮古島など、沖縄の離島に住む人々の生活を撮影した写真を多く選んでいます。いずれにしても、東京滞在期のふたりの写真が本展のひとつのみどころとなるでしょう。

その後ふたりは沖縄に戻り 撮影を続けていますね

伊志嶺は1972年の復帰前後も写真を撮っていたのですが、その写真が「72年の夏」というシリーズとして発表されたのが18年後の1990年でした。復帰後、伊志嶺は作家としての活動が少ない時期がありましたが、1985年ようやく新しいシリーズに着手し、西表島にあった炭坑を取材、その後沖縄の神話と民俗学の着想を得て、初個展「光と陰の島」を1988年に開催しました。伊志嶺の写真の特徴である正方形の写真はこのシリーズの制作の間に確立されています。その作風の変化に注目してみてください。さらにその後も新しいシリーズ「海



伊志嶺 隆《光と陰の島 西表島・元成屋》1986年

の旅人」を構想、糸満売りをテーマにしたシリーズを撮影していたのですが、惜しくも交通事故のため1993年に急逝します。

平敷は1985年に写真同人誌「美風」の出版を開始、石川真生らとともに定期的に写真を発表します。紙面には過去の作品だけではなく新作も掲載されていました。平敷は伊志嶺に比べて作風の変化が少ないように見えますが、彼がとらえた被写体の幅広さには注目すべき点があるといえます。また、彼が写真誌の編集に力を注いだということにも目を向けるべきでしょう。

最後にこの展覧会について 一言お願いします

ふたりの写真の撮り方は独特で、それぞれの作風で優れた写真を残しています。しかしながら、ふたりが模索していた写真に対しての眼差しは、意外と似ていたのかもしれない。異なる作風を単に比較することよりも、実は核心のところでは同じような問いをふたりが抱えていたのではないかとこの展覧会を企画しながら考えました。それぞれの写真を眺めながら、ふたりが考えていたその問いをじっくり味わってください。さらにその後も新しいシリーズ「海

(学芸員 亀海 史明)

大嶺薫コレクション展

2019 2/8 — 3/4 金 月

博物館特別展示室2

一般 410(330)円、高校・大学生 260(210)円、
小・中学生 150(120)円

大嶺薫(1905~1970)が戦前、戦後を通して収集した古美術を中心としたコレクションを紹介。大嶺氏の業績を顕彰し、常設企画として毎年、同氏が求めた美の世界を披露します。



染付に赤絵ソバ猪口
蓮華が表されています。どれか分かりますか?

※未就学児無料 ※県内小中学生無料
※()内は20名以上の団体料金
※70歳以上の方は無料(身分証の提示が必要です)
※博物館常設展の観覧券でご覧になれます



長嶺 宗恭作「農神の図」
農神は医薬と農業を司る道教の神

大嶺薫氏(1905~1970)は大宜味村の出身で、古美術に造詣が深かったこともあり、戦後1946年4月に沖縄陳列館(米国海軍政府により設立された)から民政府に移譲された東恩納博物館の初代館長となります(7ヶ月間)。その後も大嶺氏は収集を続け、書画骨董のコレクションは遺族によって設立された大嶺薫美術館(那覇市久茂地/1971~1985)にて公開されていましたが、1985年に沖縄県立博物館に寄贈されました。

琉球文化財専門審議委員を務め戦後の文化復興に尽力された同氏を顕彰すると同時に、同氏の希望でもあった美の世界を披露する事を目的に毎年テーマを変えて開催しています。

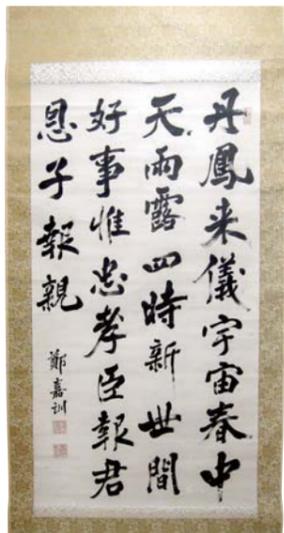
今年度は、3,500点余りのコレクションの中から「吉祥」をテーマに55点の作品を展示し、文様の意味とかたちを紹介いたします。

おめでたい兆しは「吉祥」と一括りで語られます

が、多くの人はその文様に込められた本来の意味を漠然と捉えているのではないのでしょうか。実は文様の起こりにはさまざま意味があり、時代によってその受け取り方も変わっています。また、文様も具象的な姿から形式化が図られパターン化するものもあります。大嶺薫コレクションの作品を通して吉祥文様を学び、楽しむ機会となれば幸いです。

展示は5つの章に分かれます。[I章]自然から基因する豊かさの象徴としての魚文や蓮華、[II章]姿を映す日用品でありながら長寿の願いが込められた銅鏡、[III章]富貴の象徴としての牡丹や清華な生活を示す松竹梅、[IV章]人の想像からうまれた瑞獣など、吉祥を表した美術工芸や歴史資料などを展覧いたします。また、併せて[V章]では、心の安寧を求めた象徴として製作された仏像や神像、仏具なども紹介します。

(学芸員 興那嶺 一子)



鄭嘉訓の書「七言絶句」
「丹鳳来る」とは「良き兆しがあらわれて」との意味になる

博物館特別展

縄文と沖縄—火焰型土器のシンボリズムとヒスイの道

時空を超えた美の世界がここに

縄文ブームの火付け役となった火焰型土器の美や土偶の謎、新潟県糸魚川からはるばる沖縄まで運ばれたヒスイなど縄文時代(沖縄では先史時代)の魅力に迫ります。



「遮光器土偶」
所蔵先:弘前大学北日本考古学センター

開催中 — 1/20 特別展示室・企画展示室
2019

一般 1,100(880)円、高校・大学生 600(480)円、
小・中学生 300(240)円

※()内は20名以上の団体料金 ※未就学児は無料
※障がい者手帳をお持ちの方、および介助者の方1名は半額



指定管理者企画展

新海誠展 「ほしのこえ」から 「君の名は。」まで

映画「君の名は。」で感動した理由がいま、明らかに……

アニメーション監督・新海誠の商業デビュー15周年を記念し、個人制作の「ほしのこえ」から、記録的な大ヒットとなった「君の名は。」までを貴重な制作資料である絵コンテや作画、設定資料や映像など総展示数約750点を通じて紹介します。

開催中 — 2/3 企画ギャラリー1・2
2019

一般 1,200(960)円、高校・大学生 800(640)円、
小・中学生 500(400)円

※()内は20名以上の団体料金 ※未就学児は無料
※障がい者手帳をお持ちの方、および介助者の方1名は半額



夕日の美しさを知らない子が多い

自然と向き合う機会が少ない昨今、“感動体験をしたことが無い子どもが増えた”と言い換えても良いでしょうか。過去に夕日についての話を聞いたとき、身近にいる子どもたちの顔が瞬時に思い浮かび、深く考えさせられた事がありました。

情報化社会の今、子どもも自分のスマホを持つ時代。手のひらの中で世界中の出来事が検索でき、情報もたやすく得ることができます。さらに最新のVR(バーチャルリアリティ)技術では架空の世界に入り込み、疑似体験をすることもできます。情報技術の進歩は目覚ましく、私たちの生活するこの世界は加速度的に変わっていくことでしょう。反面、失われるものもあるはずですが—。

みる経験を増やし自信を持たせる

人の生活は日々新しい経験の連続です。それら経験の中で人やものと出会い、失敗や成功体験を繰り返しながら自分というものがつくられていきます。また、映画などを観たり本を読むことで、自分に経験のない異なる世界を知ること出来ます。子どもも成長とともに経験が増え、見聞きした情報が増えるほど過去の事柄を結びつけられるようになります。特に実物を見たときの感動した経験は、百聞は一見に如かずのことわざにあるように、皆さんにもあるはずですが。

美術館の作品を見る際、大人はこれまでの経験値で作品を判断します。でも子どもは経験値が少ない分、自分なりの感覚で驚いたり、不思議がったり、感情で作品を捉えます。その時そばにいる大人が、子どもが発した言葉や気持ちを否定すること無く受け止めることができれば、その子は自分の感じ方に自信を持てるようになるはずです。見て感じたことを素直に語る子どもに寄り添い認めてあげること。きっとそのような経験をした子どもは豊かな感情を持つようになると思います。

対話で作品の世界へ入る

美術館に親子、家族で来た時に、作品の前でお互いの感想を語り合ってみてください。その時子どもに「これ何だろうね?」「ここはどこかな?」などの目線で、絵の世界に入っていくような問いかけで対話をしてみてください。絵に対する知識なんて無くても大丈夫です。きっと大人では想像できない作品の世界へ、子どもが誘ってくれるでしょう。

美術館コラム

子どもと美術館

美術館副館長

池原盛浩



ゆんたくミュージアムツアーって、なあに？

「ゆんたく」って知っていますか？ 沖縄では「おしゃべり」や「話すこと」をゆんたくと言います。ゆんたくミュージアムとは、美術館で作品を見ながらゆんたくして楽しもうという鑑賞会のことです。

ゆんたくミュージアムツアーでは参加者へ「この絵(作品)の中でいったい何が起きているか？」と問いかけます。どんな作品でも、何かを感じることは誰しもあります。それを言葉にし、参加した皆さんで共有します。他の方が話したことに対して共感したり、また違う感想や意見もあります。そして、作品の新しい発見や観方も数多く出てきます。

参加された方からの感想としては、「作品の観方が分かり、味わい方もさまざまである」「1枚の絵から様々な発見ができた」など、多くの意見が寄せられています。

答えが決まっているものとは違い、絵や彫刻などのアート作品は、観る人の生きてきた環境、性別、年齢、経験などによって多様な解釈が出来る可能性を持っています。それを観たときの感情も重なり、観れば観るほど多くの反応を呼び起こすのがアート作品だからです。

「みる、さく、はなす」ことでコミュニケーション能力も高まり、思考力、観察力も養うことが出来ます。是非、ご参加お待ちしております！

沖縄県立支援会happでは、毎月第3土曜日に「ゆんたくミュージアムツアー」を定期開催しています。



沖縄県立美術館支援会happの
Facebookコミュニティに入ろう！

facebookにて、happの情報やこれまで開催したイベントのご報告など沖縄のアートや美術館・地域の情報を共有することができます。沢山の友達と交流しましょう！

【お問い合わせ】



NPO法人 沖縄県立美術館支援会 happ
〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 沖縄県立博物館・美術館内
TEL 090-8290-0633 ブログ <http://happ-okibi.blogspot.com/>



「おきみゅーゆんたくデー」を開催しました！

もっと気軽に博物館・美術館を楽しみたい！子どもたちに本物を見せてあげたい！子育て中のお客様からのご意見がきっかけで、資料や作品を観ながら会話を楽しんでもらう「おきみゅーゆんたくデー」を開催しました。

館のイメージが和らいで、来館しやすくなりました。

子どもがいたらなかなか出かけられない。お母さんに優しい企画を期待しています。

みんなが楽しく会話している方が博物館を身近に感じられました。



これまで美術館では鑑賞の為に、静かな空間を大切にしてきたところがあります。しかし一方でそれが子ども連れのお客様にとっては来館しづらい環境となっていました。今回のイベントでは「出かけるきっかけになって嬉しい」「来やすくなったらいろんな人に沖縄の作品を見てもらえる」などのご意見をいただき、沢山の方に必要とされるイベントだと感じることが出来ました。これからは気兼ねなく来館できる環境づくりを大切に、次回の開催を計画していきたいと思えます。

一般財団法人沖縄美ら島財団
教育普及担当 保久村 智恵

毎月楽しいイベントが盛りだくさん
だみゅー

1・2・3月のイベント情報

※講師都合により日程やタイトルなど予告なく変更する場合があります。詳細はHP・チラシをご確認ください。



博物館常設展 展示解説会

【各回共通】 時間 14:00～15:00 場所 博物館 常設展示室
※当日有効の常設展観覧券が必要

1/10 人類 2/14 歴史 3/14 人類

講師 山崎真治 講師 久部良 和子 講師 澤浦亮平

バックヤードツアー

無料

【各回共通】 時間 14:00～15:00 集合場所 ふれあい体験室前 定員 12名
※当日9:00より総合案内で受付

1/26 民俗 2/23 美術工芸 3/23 歴史

講師 大湾 ゆかり 講師 篠原 あかね 講師 久部良 和子

「縄文と沖縄」関連催事

1/10・14・20 展示解説会

【各回共通】 時間 11:00～12:00 ※10日(木)のみ15:00～16:00

場所 「縄文と沖縄」展示室内 講師 山崎真治
※当日有効の「縄文と沖縄」観覧券が必要

1/12 博物館学芸員講座 「骨を分けるコツー骨考古学入門」 無料

時間 14:00～16:00 (開場13:30) 場所 博物館 講座室

定員 80名 講師 澤浦亮平 ※終了後に「縄文と沖縄」の展示解説会を予定(当日有効の「縄文と沖縄」観覧券が必要)

ふれあい体験室ワークショップ

毎週土曜開催 ふれたい博士の凧づくり ～カーブヤーに挑戦！

時間 1回目 10:00 2回目 10:30 3回目 11:00 4回目 11:30 ※所要時間30分

場所 エントランス 参加費 300円 対象 5歳から大人まで

定員 当日先着40名(各回10名) ※当日9:00よりふれあい体験室にて全ての回を受付

学芸員講座

無料

3/23 ジオツアー(仮) 講師 宇佐美 賢

※詳細が決まり次第ホームページで告知します

次ページへ続く



「新海誠展「ほしのこえ」から「君の名は。」まで」関連催事

1/19 「星を追う子ども」上映会

時間 9:30～11:30 (開場9:00) 場所 講堂 ※入場には展示会のチケット、もしくは半券が必要です。
※その他のイベントはホームページにてご覧ください

美術館ミュージアムツアー

時間 10:30～12:00 (10:25までに「美術館ホワイエ」集合)

1/26 定員 12名(事前申込制) 講師 富原 圭子

※当日有効の美術館コレクション展の観覧券が必要
※来館・お電話にて催事の1ヶ月前から受付開始

OKINAWAアートワークショップ

1/26 「書画に遊ぶ」 アダンの筆で書き初めにチャレンジ!

時間 13:30～16:30 (開場13:00) 場所 博物館 実習室

定員 20名(対象は3才～一般 ※未就学児は保護者同伴で参加)

講師 伊江 隆人氏(美術家) 参加費 500円

参加方法 事前申込制 ※詳細はホームページにてご覧ください

2/16 石獅子 守り神づくり

時間 ①9:30～12:30 (開場9:15) 場所 博物館 実習室
②14:00～17:00 (開場13:30)

定員 各回5組(対象は小1～一般 ※小2以下は保護者同伴)
※大人1名での申込み、ご家族での申込みなど色々対応できますので、お問い合わせください

講師 若山 大地氏、若山 恵里氏(スタジオde-jin) 参加費 一組3,000円

参加方法 事前申込制 ※詳細はホームページにてご覧ください

コレクション展「伊志嶺隆と平敷兼七」関連催事

2/23 ギャラリートーク

時間 14:00～15:30 (開場13:30) 場所 調整中

講師 中嶋 興氏(映像作家)、石川 竜一氏(写真家)

※当日有効の美術館コレクション展の観覧券が必要

3/9 キュレータートーク+学芸員講座

時間 14:00～15:30 (開場13:30) 場所 美術館講座室、コレクションギャラリー1-2

定員 50名 講師 亀海 史明

※当日有効の美術館コレクション展の観覧券が必要

次ページへ続く

「沖縄が誇る家宝の三線展」関連催事

2/5

琉球三線楽器保存・育成会
「創立30周年 記念式典」

時間 14:00～16:00 (開場13:30) 場所 講堂 定員 200名
※当日有効の「沖縄が誇る家宝の三線展」観覧券が必要

2/9

博物館学芸員講座
「三線の正体 - 棹や胴の銘書きからわかること -」
無料

時間 14:00～16:00 (開場13:30) 場所 博物館 講座室
定員 80名 講師 園原 謙

2/10

17 24 三線ゆんたく会 無料

[各回共通] 時間 14:00～16:00 場所 3F ホワイエ(展示会場前)
相談員 琉球三線楽器保存・育成会員 等

2/16

シンポジウム
「三線が奏でるウチナーンチュの心」
無料

時間 14:00～17:00 (開場13:30) 場所 講堂 定員 200名

講話:「人びとの生活の中の三線」 講師 上原 直彦氏 (放送人)

シンポジウム:「三線の文化財としての重要性について」

講師 高良 倉吉氏 (琉球大学名誉教授) 大城 學氏 (前琉球大学教授)
谷口 真吾氏 (琉球大学教授) 園原 謙

2/23

ワークショップ
「親子でつくろう、カンカラ三線」

時間 10:00～13:00 (開場9:30) 場所 博物館 実習室
定員 20名 講師 町田 宗男氏、町田 宗武氏 (三線工房まちだ屋)
参加方法 事前申込制 ※詳細はホームページにてご覧下さい

3/2

ワークショップ「三線づくり実演会」
無料

時間 10:00～13:00 (開場9:30) 場所 博物館 実習室
定員 20名 協力 沖縄県三線製作事業協同組合

3/2

シンポジウム
「三線の伝統と未来
- 県産三線普及ブランド化事業報告 -」
無料

時間 14:00～17:00 (開場13:30) 場所 講堂 定員 200名

第一部: 三線ブランド化の取り組みについて

第二部: 県産三線ブランド化事業委員11名によるクロストーク

第三部: 特別仕様の三線3モデル (大工モデル・知名モデル・宮沢モデル) の弾き比べ

3/4

さんしんの日のイベント「演奏会」
無料

時間 10:00～13:30 (受付10:00～11:00) 場所 エントランスホール

11:00～12:00 準備とチンダミ

12:00～12:30 かぎやで風で幕開けその他数曲
(恩納節・こてい節・中城はんた前等)

13:00～ かぎやで風、松竹梅で幕閉め
※参加者は座椅子や座布団、かぎやで風等の姿着持参

コレクション展「沖縄美術の流れ」関連催事

3/2

ギャラリートーク「沖縄美術の流れ」

時間 14:00～15:30 (開場13:30) 場所 美術館講座室、
コレクションギャラリー3
定員 50名 講師 調整中
※当日有効の美術館コレクション展の観覧券が必要



[開館時間] 9:00～18:00 (金曜日・土曜日は20:00まで)
※入館は閉館30分前まで
[休館日] 月曜日 (月曜日が祝日にあたる場合は開館し、翌平日が休館)
年末年始休館 (12月29日～2019年1月3日)
館内消毒休館 (2019年2月25日～27日)
※休館日は変更することがあります
[ホームページ] <https://okimu.jp>

編集後記 | 最近、自信がなくなる事が増えました…。もう少しポジティブになろうと考えてはいましたが中々うまく行かず。気合を入れて取り組んだ広報誌制作! 楽しい半面かなり大変でした。今回の制作に関わった皆様、この場を借りて感謝申し上げます! 次号もお楽しみに♪ (博ひと)

沖縄県立博物館・美術館 季刊誌
おきみゅー一通信 vol.10 冬号
〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 TEL 098-941-8200 (代表)
[発行日] 2019年1月4日
[編集・発行] 沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 一般財団法人 沖縄美ら島財団

おきみゅーメンバーズカードが
ギフトになりました!!

知的好奇心をくすぐるプレゼント



■おきみゅープレミアムメンバーとは?
沖縄県立博物館・美術館(おきみゅー)が主催する全ての展覧会へ
1年間何度でも入場できるお得な年間パスポートです。
大切な方への特別な日の贈り物にいかがでしょうか?
取扱店: ミュージアムショップゆいむい 詳しくはショップまで!